

ものぐさじじいの来世

小川未明

青空文庫

あるところに、ものぐさじいさんが住んでいました。じいさんは、若いときから、手足を動かしたり、人にあつて話をしたりすることを、ひじょうにもものぐさがつて、いつもじつとしていたことが好きでありました。

花が咲いても、どこかへ見物に出かけるでなし、お祭りがあつても、わざわざいつてみるという気持ちにもならず、一日、じつとして背中を円くしてすわっていました。

年をとつてからは、ますますものぐさになって、倒れている火ばしを直すのもめんどろがだったのであります。けれど、おじいさんは徳人とみえて、みんなから愛されていました。また暮らした

にも困らずに、終日、日のよく当たるところに出て、ひなたぼっこをしていました。

おじいさんは、あまり口数はきかなかつたけれど、それは根がいい人でありました。そうかといって、人々が、おじいさん、おじいさんと話しかけてこようものなら、それは、むずかしい顔をしてうるさがりしました。

「おじいさん、今日は、いいお天気だから、どこかへお出かけなさい。」と、家のものというと、おじいさんは、はげ頭を空に向けて、

「ああ、風が寒いから止しだ。」といいました。

それから、おじいさんは、それは、また寒がりでありました。

けれど、こうした気むずかしやおじいさんでも、子供は好きでした。

おじいさんは、ものぐさ者ですから、子供を集めて、けっしておもしろい話などをきかせるようなことはなかったが、見てにこと笑っていました。子供は、おじいさん、おじいさんといつて、そのまわりで遊びました。そして、おじいさんが、こくり、こくりと居眠りをしますと頭の上に紙きれをのせたり、背中に旗などを立てておもしろがって笑ったものです。

おじいさんは、子供ばかりには、いやな顔もしませんでした。だれでも年をとると、一度は死にますように、おじいさんも、とうとうなくなる日がまいりました。

おじいさんは、この世よにいるときに、悪いわることをしなかつたら極楽ごくらくへいきました。

すると、仏ほとけさまは、おじいさんに向むかつて、

「おまえは、世よの中なかにいるときに、あまりものぐさで、他人たにんに対してたい、特別とくべつによいこともしなかつたかわりに、悪いわることもしなかつた。そして、子供こどもに対してたいはやさしかつたから、なんでもおまえの望のぞみの一つだけはきいてやる。」といわれました。

おじいさんは、頭あたまをかしげて、なにを願ねがいしたらいいだろうかと考かんがえていました。

「仏ほとけさま、私わたしは、もう人間にんげんになつて世よの中なかへ出でるのはまっぴらでございます。もつと、のんきな安楽あんらくなものにしてくださいま

し。」と願ねがいました。

ほとけ
 仏さまは、おじいさんのものぐさを笑わらわれました。

さて、そんなら、なんにしてやろうかと、ほとけ
 仏さまはお考かんがえにな
 りましたが、なかなかおじいさんの望のぞみのようなものは、ちよつ
 と見みつかりませんでした。

「へびにしようか。」と、ほとけ
 仏さまはお思おもいになりました。けれど、
 へびは冬ふゆは寒さむがりですから、おじいさんには向むきませんでした。
 ほとけ
 仏さまは、いろいろと考かんがえられたすえに、

くも
 「雲くもにしようか。」と、お思おもいになりました。雲くもは、はてしもな
 おおぞら
 い大空おおぞらを、毎まい日にち、あてもなく漂ただよっているのですから、おじい
 さんのようなものぐさ者ものには、いちばん適てきしていました。けれど、

おおかぜ
大風が吹いたときは、急がしく駈け出さなければならぬ。これ
れもやはりおじいさんには向きませんでした。

ほとけ
仏さまは、お困りになりました。そして考えぬいたすえに、つ
いにおじいさんを、つぎのようなものとしてしまわれたのであり
ます。

みなみあたた
はるか南の暖かな海の、人もいかなるところでありました。そ
この海、中の岩かげに、ふわふわと浮かんでいる海藻に、お
じいさんをしてしまつたのです。一日ふわふわと海の上に浮かん
でいます。日の光が暖かに照らしています。波影が、きらきら
と光つています。鳥もめつたに飛んでこなければ、その小さな島
には、人も、獣物も住んでいませんでした。そして、この近傍

をとお通る船の黒い煙くろけむりすら見えませんでした。ただ岩いわの上うへに咲いた、
らんしろの白い花はなが、かすかに香かおつて、穏おだやかな、暖あたたかな風かぜにほろほ
ろと散ちつて落おちるばかりでありました。

こうして、一日いちにちはたち、やがて十年ねん、二十年ねんとたちます。百年ねん、
二百年ねんとたちます。けれどそこばかりは、いつも日ひが上あがって、
暮くれるまで、同おなじような光景こうけいがつづいていました。

青空文庫情報

底本：「定本小川未明童話全集 2」講談社

1976（昭和51）年12月10日第1刷

1982（昭和57）年9月10日第7刷

※表題は底本では、「ものぐさじじいの来世《らいせ》」となっています。

入力：ぷろぼの青空工作員チーム入力班

校正：富田倫生

2012年5月23日作成

2012年9月28日修正

青空文庫作成ファイル：

このファイルは、インターネットの図書館、青空文庫 (<http://www.w.aozora.gr.jp/>) で作られました。入力、校正、制作にあたったのは、ボランティアの皆さんです。

ものぐさじじいの来世

小川未明

2020年 7月13日 初版

奥 付

発行 青空文庫

URL <http://www.aozora.gr.jp/>

E-Mail info@aozora.gr.jp

作成 青空ヘルパー 赤鬼@BFSU

URL <http://aozora.xisang.top/>

BiliBili <https://space.bilibili.com/10060483>

Special Thanks

青空文庫 威沙

青空文庫を全デバイスで楽しめる青空ヘルパー <http://aohelp.club/>

※この本の作成には文庫本作成ツール『威沙』を使用しています。

<http://tokimi.sylphid.jp/>